

## 【事業実績】

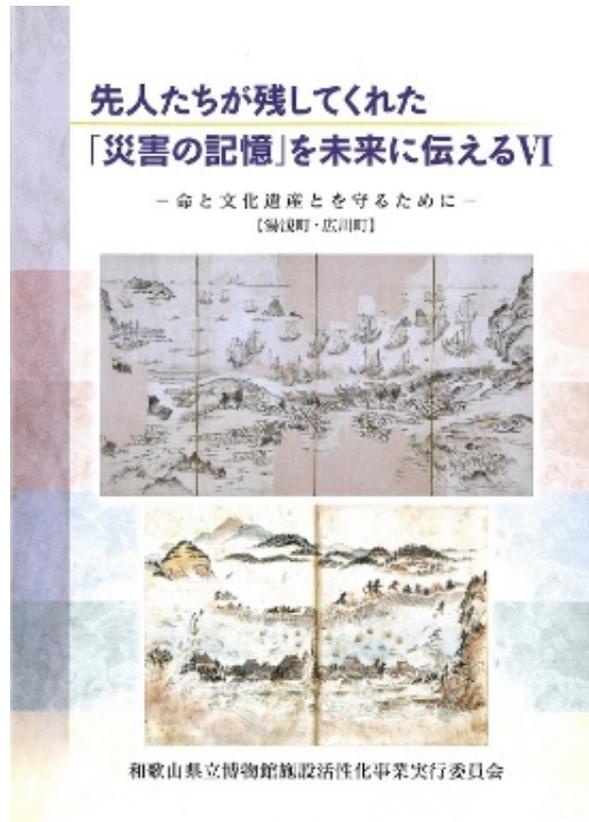
文化遺産は、その価値が多くの人々によって共有され、日常の中に溶け込み活用されることで適切に継承されるといえます。しかしなお地域の中では、学術的価値が評価されないまま、文化遺産が自然災害や盗難などによる喪失の危機に直面している状況があります。本事業では次の3つの取り組みを行いました。

- 1、和歌山県内沿岸部に所在する「災害の記憶」に関する文化遺産を地域の人々や研究者との協働によって掘り起こし価値を共有化する防災への取り組み
- 2、過疎・高齢化等で維持継承の困難となっている集落の文化遺産を最新技術で複製し信仰環境を維持しながら保存継承する防犯対策への取り組み
- 3、視覚障害者が地域の歴史や文化に関する情報に接するために「さわれるレプリカ」及び「さわって読む図録」を作製するユニバーサルデザイン化の取り組み

自然災害への備えとしての歴史教育、人口減少・高齢化社会における新たな文化財継承方法の実践、そして障害者の社会生活の支援としてのツール開発という、現代社会が直面する社会的課題に対して博物館の機能を活かしつつ、実際的な効果を発揮した取り組みといえ、他の地域や機関に対するモデル事業としての役割を果たしました。

### 1 地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業

歴史資料保全ネット・わかやま、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議、市町村の文化財担当部局などと連携し、湯浅町・広川町内に所在する「災害の記憶」に関する資料、両町内の沿岸部(津波被害が想定される地域)に所在する文化遺産を両町の文化財担当者との協働により調査しました。その成果を小冊子にし、両町内に全戸配布し、和歌山県立博物館HPに掲載しました。また地域住民を対象とした現地学習会を湯浅町と広川町の2会場で実施しました。博物館の活動が地域住民の防災意識形成に寄与するとともに、両町の文化財担当者との協働による調査は、改正文化財保護法で市町村に求められている文化財保存活用地域計画策定への足がかりともなりました。なお、現地学習会の報告内容についても、ホームページにて動画を公開して、普及に努めています。



左上：記念碑調査(広川町広・東浜口公園)

左下：現地学習会(広川町広) 右：作製した小冊子

## 2 文化遺産の複製を活用した防犯対策事業

過疎・高齢化等で維持継承が困難となっている集落の文化遺産を、最新技術で複製を作製し、信仰環境を維持しながら保存継承するための防犯対策の取り組みを、和歌山県立和歌山工業高校と和歌山大学と連携して行いました。

対象としたのは高野町大滝の大滝丹生神社の丹生明神坐像・高野明神坐像と、海南市下津町大崎の大崎観音堂の宝冠釈迦如来坐像です。現地から博物館へと資料を移し、高校生による3D スキャナーによる計測、3D・CAD を用いた修正作業、そして3D プリンターによる出力を行いました。博物館による下地処理作業ののち、大学生による着色作業を進める段階で、コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言下のため大学の課外活動停止処置となったため、着色を完了させることができませんでした。引き続き次年度に着色を進めて奉納を行う予定です。



3D スキャナーによる計測



CAD を用いた修正作業



左:実物 右:複製

## 3 さわれる資料による博物館のユニバーサルデザイン化事業

視覚障害者が地域の歴史や文化に関する情報に接するための「さわれるレプリカ」については、2 と同様に着色作業が完了しなかったため、無着色の資料として完成させました。

さわって読む図録については県立和歌山盲学校と連携して『粉河寺縁起 一手で読む神秘の物語』を作製しました。企画展「きのくにの物語絵」(会期:令和3年3月13日～4月18日)会場に設置して施設のユニバーサルデザイン化の取り組みに活用するとともに、県内全図書館、近畿盲学校、全国主要点字図書館、全国主要博物館、大学図書館等に寄贈し、事業の普及に努めました。盲学校の全盲教員から「目が不自由な人は立体的なイメージを持つことが難しく、普段からさわって理解することを積み重ねる必要があります、図録はその訓練になる」との評価があり、また「取り組みが全国に広がってほしい」との要望を得ています。視覚障害者が情報にアクセスする手段として高い効果があり、博物館展示のユニバーサルデザイン化を促進させる効果がありました。



上:3D プリンター製さわれるレプリカ

下:さわって読む図録『粉河寺縁起』

